

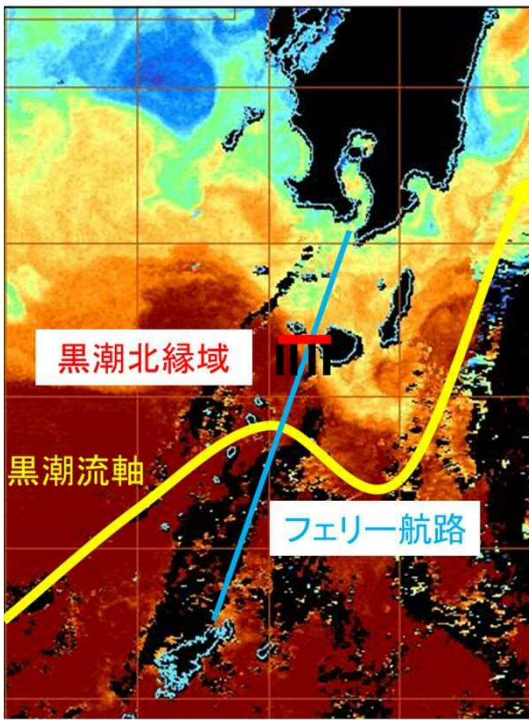
# 黒潮と漁況の関係性について

資源管理部 研究員 小路口 拓輝

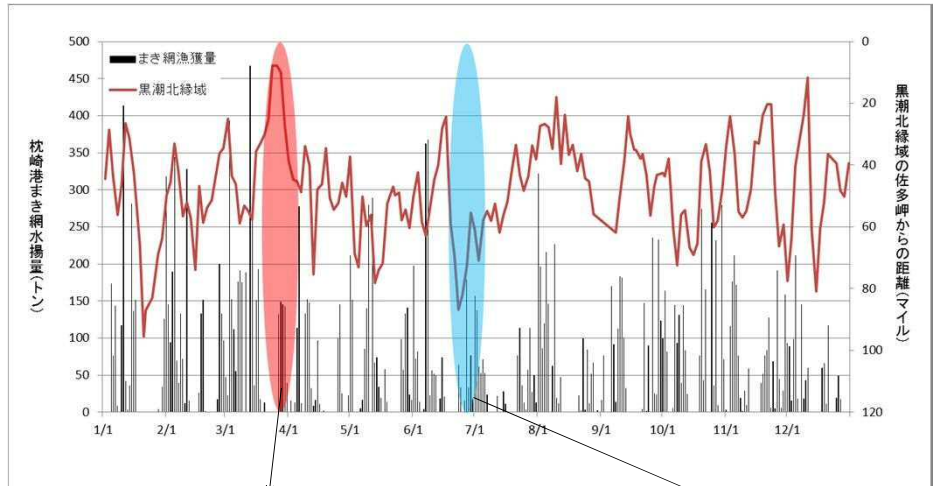
**目的** 黒潮北縁域の変動と浮魚類の漁獲量及び漁場位置との関係について知見を得る。

## 使用データと方法

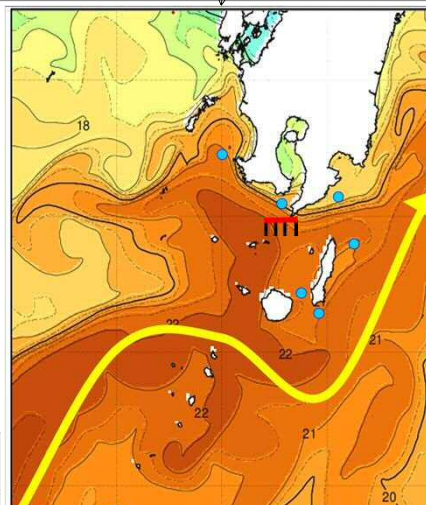
H28年の黒潮北縁域の佐多岬からの距離、黒潮流軸位置（海上保安庁海洋速報）、枕崎港まき網水揚量・漁場位置を比較し、水揚げがあった最接岸時と最離岸時の特徴を調べた。



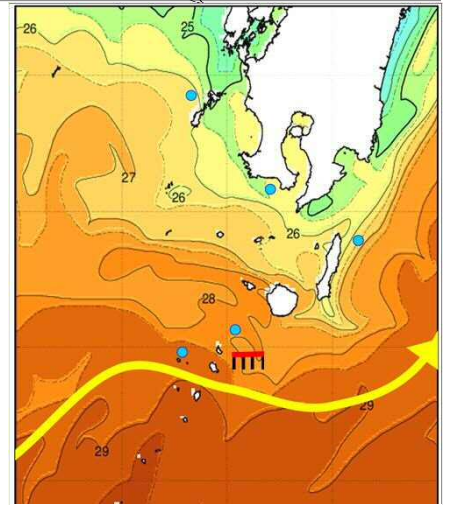
NOAA/MetOp水温分布画像 (H28.10.6)



黒潮北縁域～黒潮水と沿岸水との境  
黒潮流軸～黒潮流路の最強流帯



H28.3.28海況図と漁場(3.28～31)



H28.7.3海況図と漁場(7.3～6)

	枕崎水揚量(トン)	CPUE(トン/隻)
接岸時(3/28～31)	827.42	30.65
離岸時(7/3～6)	261.67	21.81

## 結果と考察

接岸、離岸時ともに潮目付近に漁場が形成されている。

- 接岸時：潮目（等温線が混んだ海域）が沿岸部を中心に広く形成。
- 離岸時：漁場位置は広範囲にあり、潮目は一部海域のみ形成。

→ 接岸時は潮目が現れやすく、水揚量が増大しやすい。

## 漁場探索には海況(黒潮・水温分布)把握が重要！

今後の課題として、季節別の水揚げ傾向の把握、潮流など他海況要素の影響、魚種毎の違いなど各事例ごとに長期間の解析が必要。